

### 33. 放っておくとどうなるのでしょうか？

心臓は、脳を始め全身に血液を循環させるポンプの役目を、絶えることなく果たしています。心臓の動きが止まったら死んでしまいます。心臓が働き続けるために必要な酸素や栄養分を供給している通路である動脈の病気が、虚血性心疾患、あるいは冠動脈疾患と言われているものです。初めの頃は、動脈の壁にわずかな傷が出来た程度ですが、その傷が広がってくると、動脈の内腔が除除に狭くなり血液の流れが悪くなってきます。この状態を動脈硬化と呼んでいます。動脈の壁にコレステロールや、カルシウムや、コラーゲンなどが溜まって瘤状に腫れてきます。これをアテロームと言います。動脈の壁は硬く、また脆くなってきます。これを放っておくと、瘤状の腫れはますます大きくなって来ます。このアテロームの出来た所では、動脈の壁が破れやすくなってきます。それが破れると急に血栓ができて、血液の流れが滞って、狭心症や心筋梗塞、あるいは心臓突然死を迎えることとなります。

心臓の動脈がわずかに傷ついた状態の時は、心臓からくる症状は何もありません。激しい運動も出来ます。ただ、糖尿病、高血圧、脂質異常症、メタボリックシンドロームなどの動脈硬化危険因子の症状がある程度です。この状態をそのまま放っておくと階段を上る時などに狭心痛が現れるようになります。さらに病気が進んでくると、夜寝ている時でも狭心痛が起こるようになります。この状態では、心臓の動脈が何時、閉塞してもおかしくない状態になっています。そのまま放っておくと突然、心筋梗塞が起こるようになります。軽い心筋梗塞であっても、心臓の機能が低下するために、そのまま放っておくと心筋の傷害部位が広がり、血液を送り出せなくなります。不整脈、血圧低下、呼吸困難となり死を迎えることとなります。心筋梗塞の発作で倒れても、すぐ心臓の専門医のいる病院に運ばれて治療を受ければ、たいていは回復します。歩いて病院にいくと、歩行が心臓に負担を掛けて、病気を悪化させてしまうことがありますので、安静を保ちながら病院に行くようにしてください。